

**2019年 12月期**


**通期決算資料**



**ダイトロン株式会社**

**証券コード：7609**

# 連結決算概要について (業績結果および業績予想)



代表取締役社長 前 績行

## 19年通期業績

■ 売上高 **61,621百万円**

(前年比 103.3%)

■ 営業利益 **3,205百万円**

(前年比 90.4%)

■ 経常利益 **3,220百万円**

(前年比 89.6%)

■ 当期純利益 **2,171百万円**

(前年比 95.5%)

### 通期業績の推移グラフ

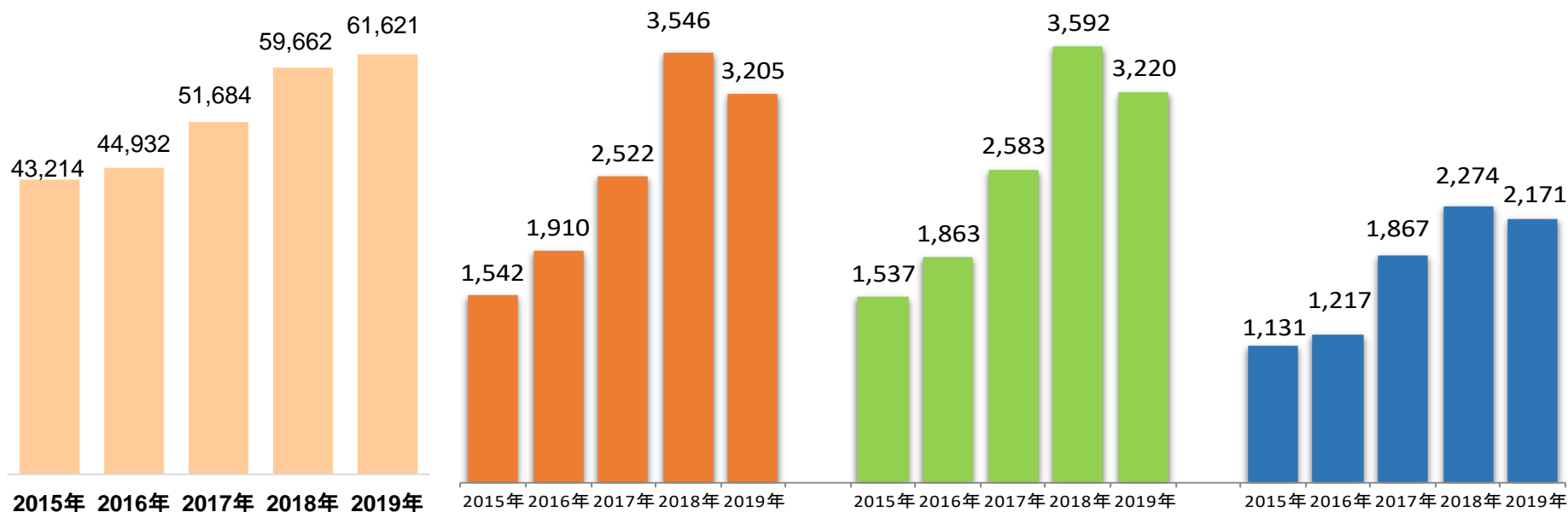
売上高

営業利益

経常利益

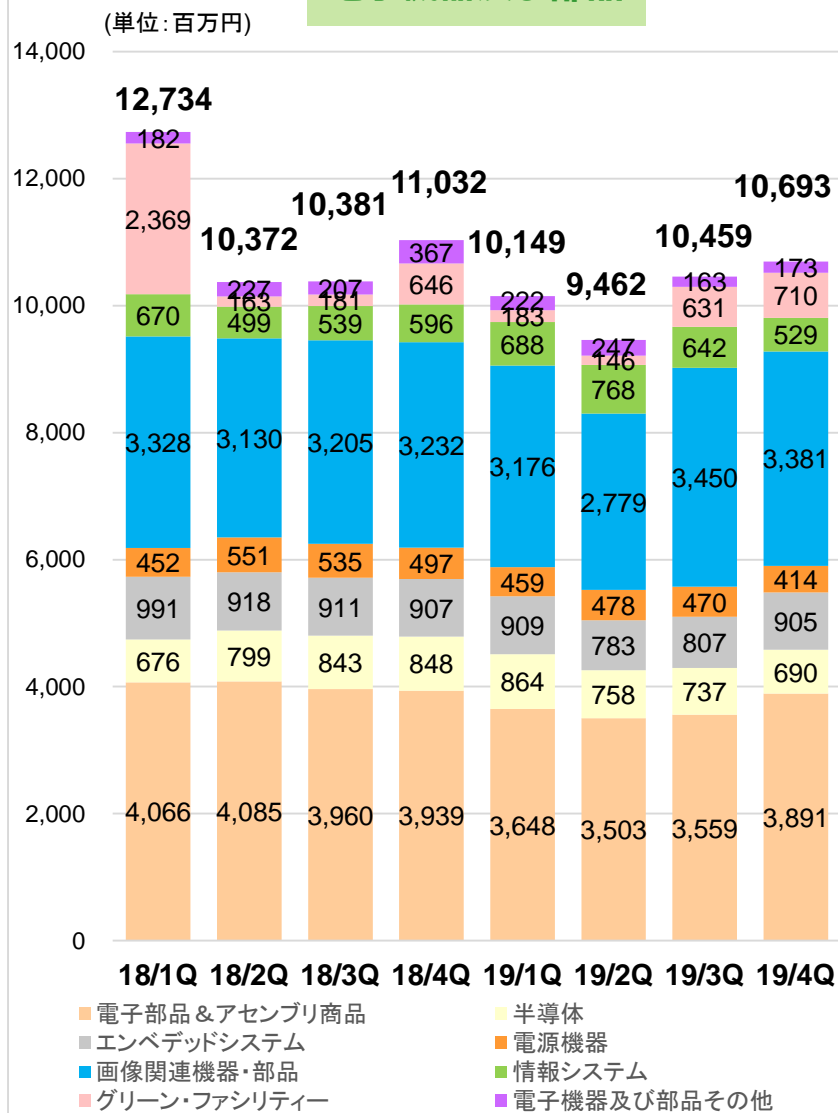
当期純利益

(単位: 百万円)

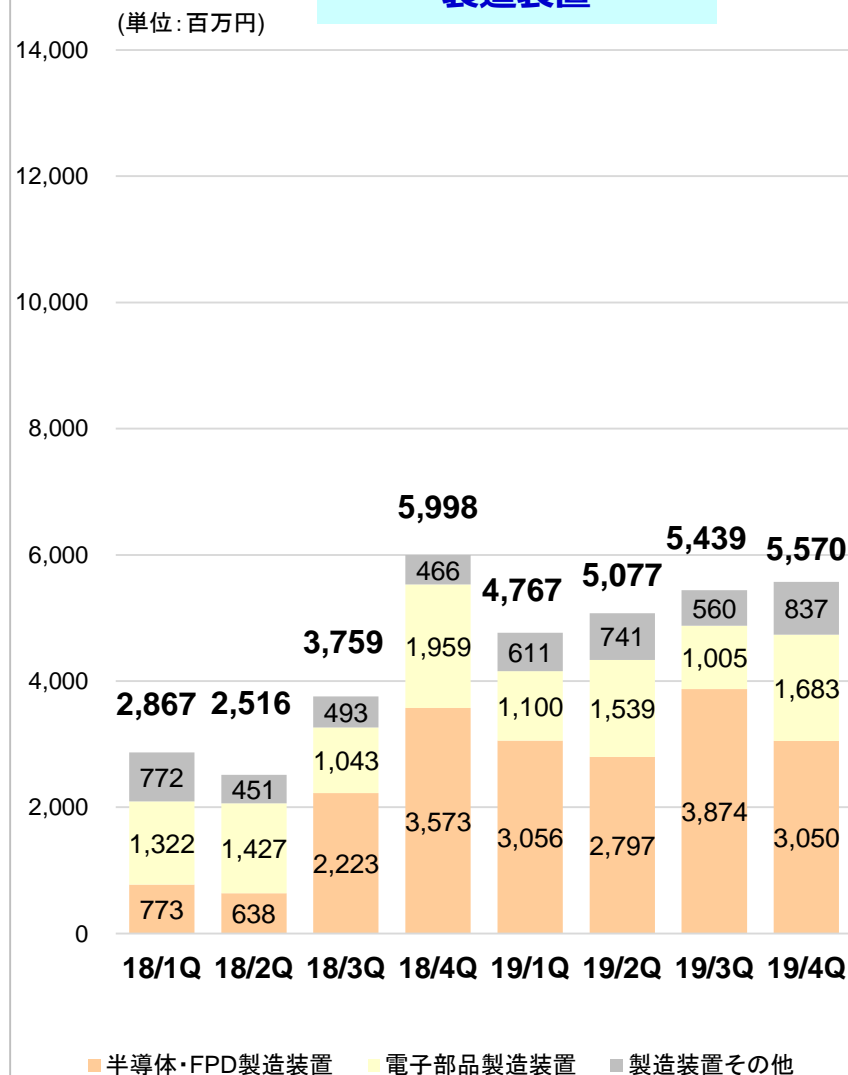


# 商品セグメント 四半期別業績推移

## 電子機器及び部品



## 製造装置



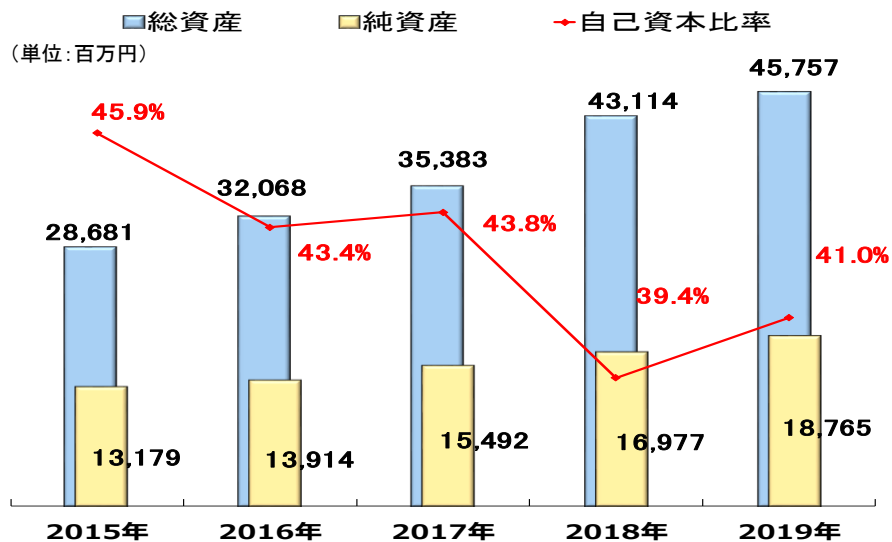
## 連結財政状態

**総資産**  
45,757百万円  
(2,643百万円増)

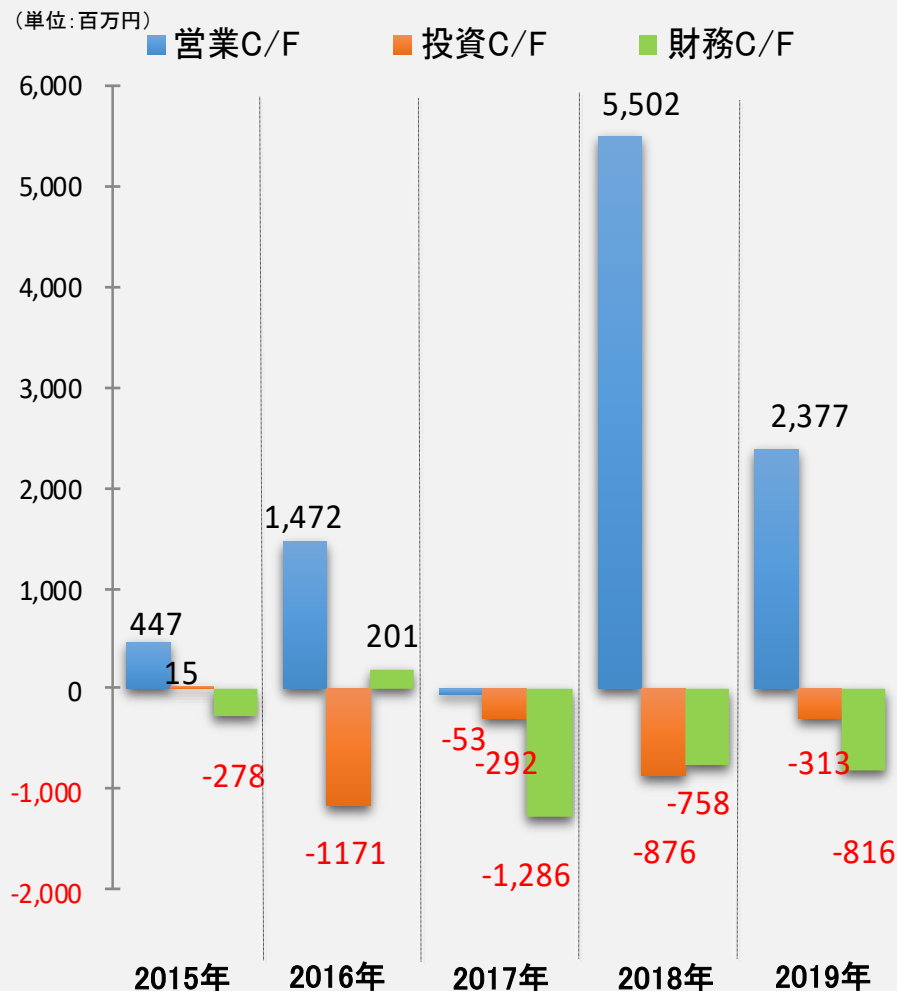
**負債**  
26,992百万円  
(854百万円増)

**純資産**  
18,765百万円  
(1,788百万円増)

## 総資産・純資産・自己資本比率



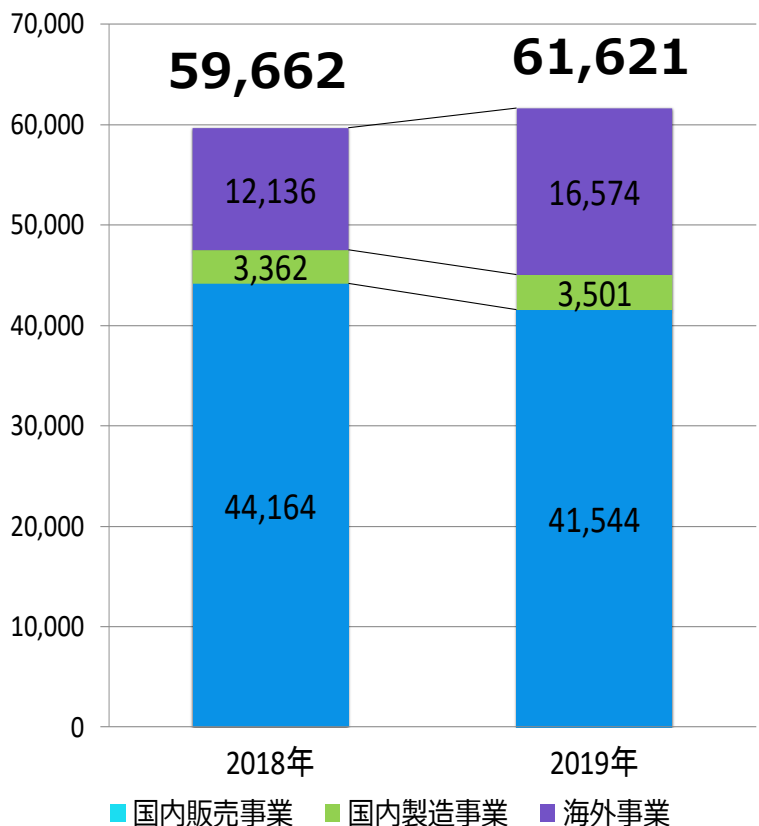
## 連結キャッシュ・フローの状況



# 報告セグメント別概況推移

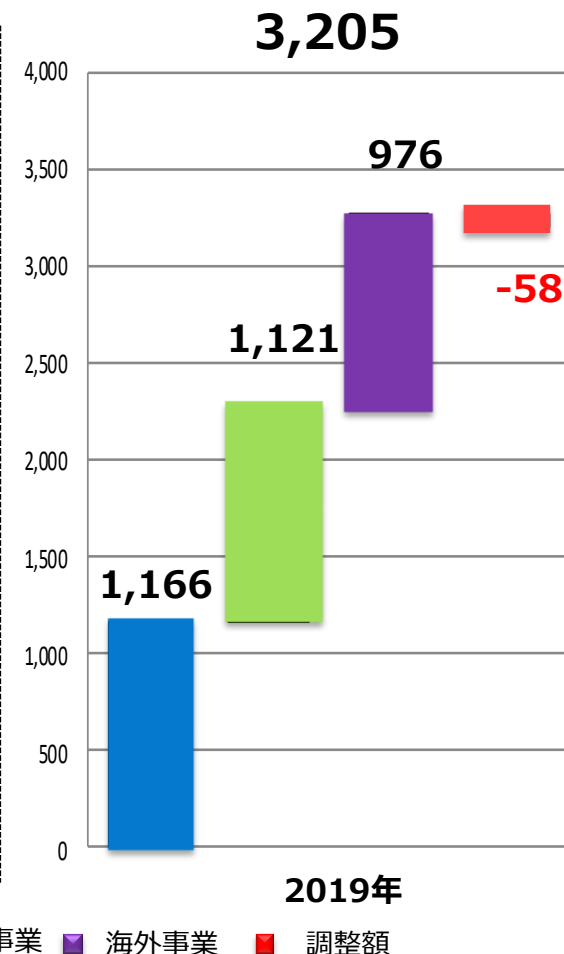
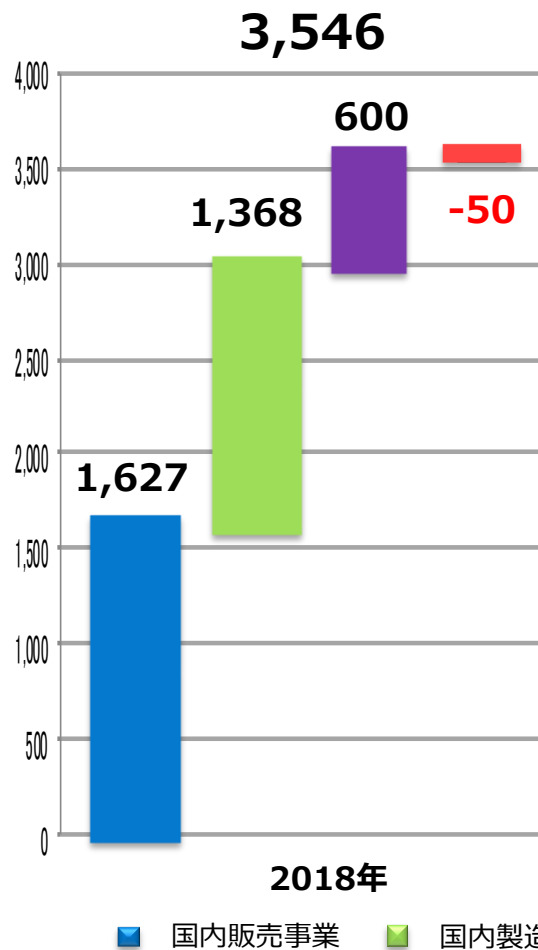
## 売上高

(単位：百万円)



## 営業利益

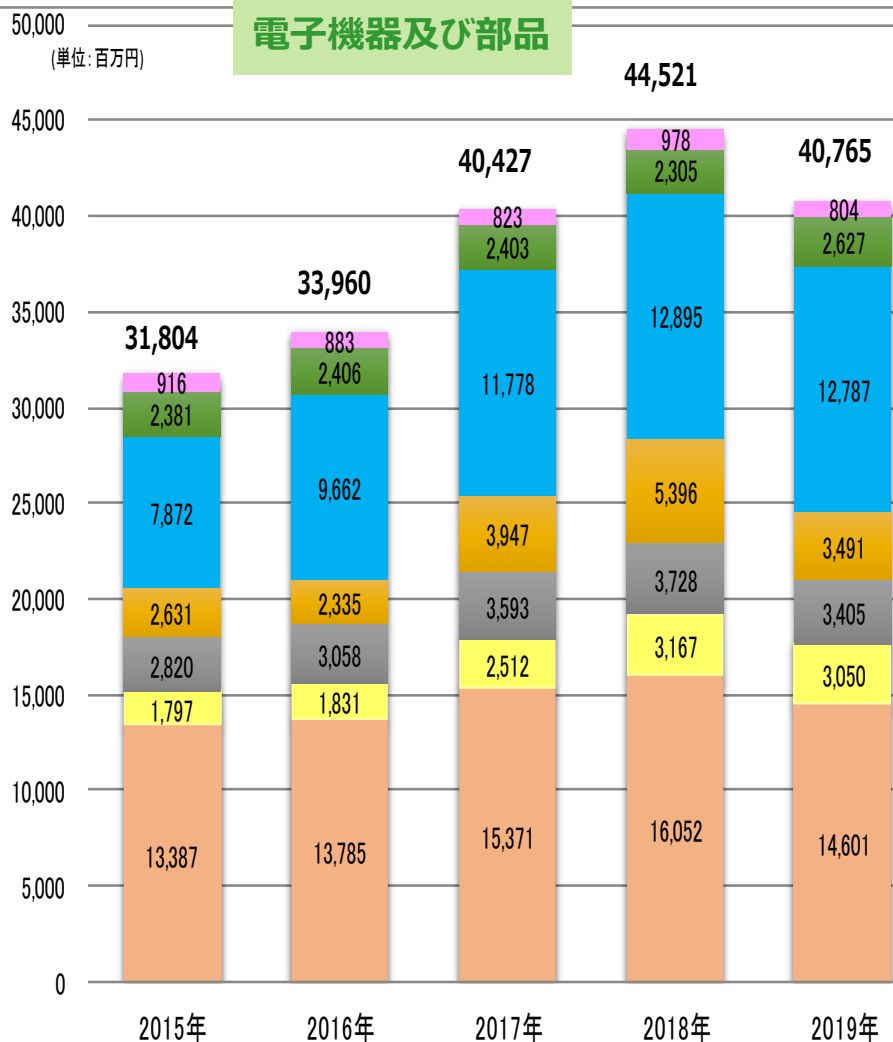
(単位：百万円)



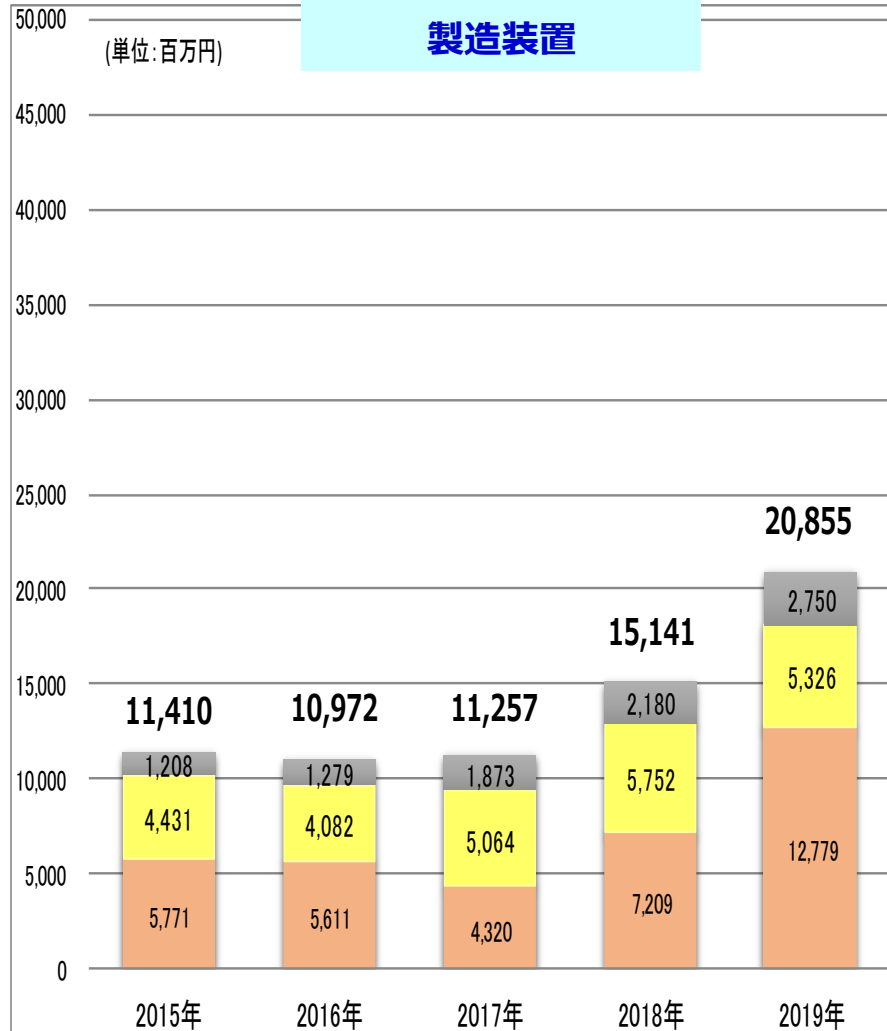
(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販管費及び一般管理費です。  
 2. 当連結会計年度(2019年度)より、従来「国内販売事業」セグメントに含まれておりました海外事業本部と「海外子会社」セグメントを統合し、「海外事業」として報告セグメントの区分を変更しております。また、各セグメントの前年同期比較につきましては、前年同期の実績を変更後の報告セグメントの区分に組替えた数値で比較しております。

# 商品セグメント別 通期業績推移

## 電子機器及び部品



## 製造装置



- 電子部品&アセンブリ
- 電源機器(グリーン・ファシリティー含む)
- 電子機器及び部品その他
- 半導体
- 画像関連機器・部品
- エンベデッドシステム
- 情報システム

- 半導体・FPD製造装置
- 電子部品製造装置
- 製造装置その他

# 当社の事業構造

19年度通期実績



事業	商品セグメント別	売上高構成比	総利益率	オリジナル 製品比率	海外売上比率	
電子機器・部品	電子部品&アセンブリ商品	<b>23.7%</b> (前年同期 27.0%)	<b>23.8%</b> (前年同期 24.7%)	21.9% (前年同期 26.0%)	北米 <b>2.1%</b> (前年同期 3.1%)	
	半導体	<b>4.9%</b> (前年同期 5.3%)	<b>18.7%</b> (前年同期 19.6%)			
	エンベデッドシステム	<b>5.5%</b> (前年同期 6.2%)	<b>14.2%</b> (前年同期 15.2%)			
	電源機器(グリーン・ファシリティ 含む)	<b>5.7%</b> (前年同期 9.0%)	<b>28.8%</b> (前年同期 17.7%)		21.9% (前年同期 26.0%)	欧州 <b>0.8%</b> (前年同期 0.9%)
	画像関連機器・部品	<b>20.8%</b> (前年同期 21.6%)	<b>14.8%</b> (前年同期 16.4%)			
	情報システム	<b>4.3%</b> (前年同期 3.9%)	<b>23.8%</b> (前年同期 26.7%)			
	電子機器及び部品その他	<b>1.3%</b> (前年同期 1.6%)	<b>6.2%</b> (前年同期 14.1%)			
製造装置	半導体・FPD製造装置	<b>20.7%</b> (前年同期 12.1%)	<b>18.3%</b> (前年同期 17.8%)	21.9% (前年同期 26.0%)	アジア <b>24.3%</b> (前年同期 17.3%)	
	電子部品製造装置	<b>8.6%</b> (前年同期 9.6%)	<b>30.2%</b> (前年同期 35.0%)			
	製造装置その他	<b>4.5%</b> (前年同期 3.7%)	<b>16.2%</b> (前年同期 24.9%)			
全 体		<b>100.0%</b>	<b>20.3%</b> (前年同期 21.5%)	<b>21.9%</b> (前年同期 26.0%)	<b>27.1%</b> (前年同期 21.2%)	

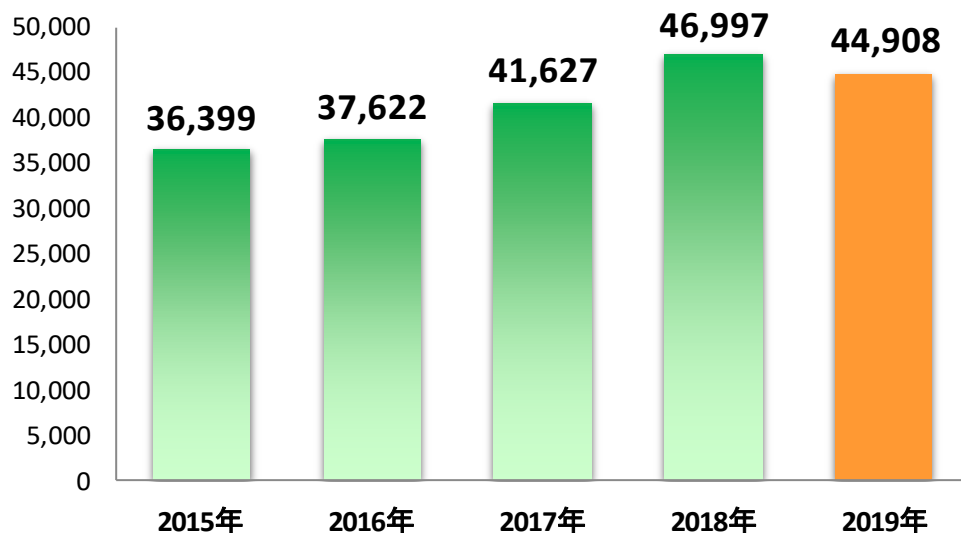
は、当社オリジナル製品を含んだ商品セグメントとなっております。



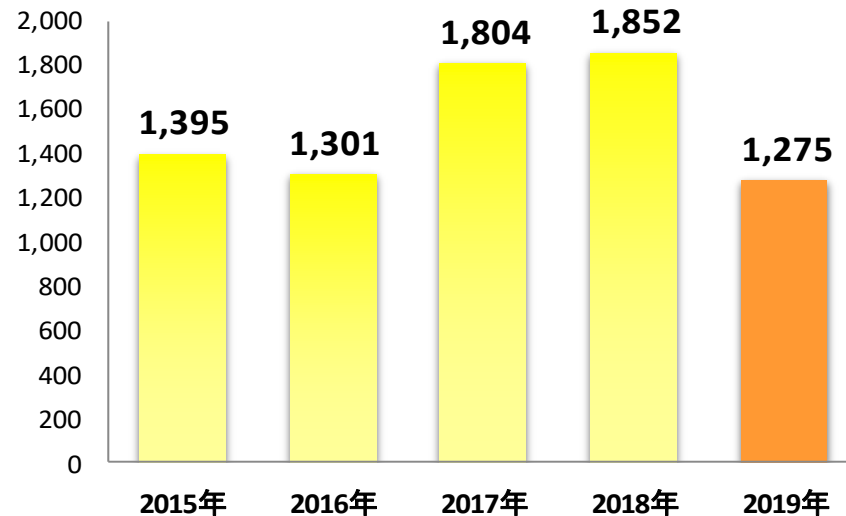
# 地域別 売上高推移

(単位:百万円)

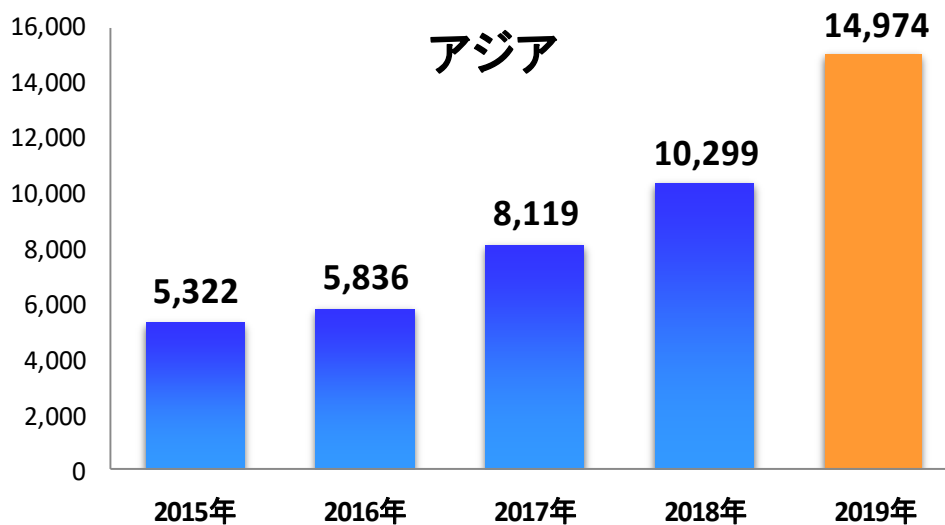
## 国内



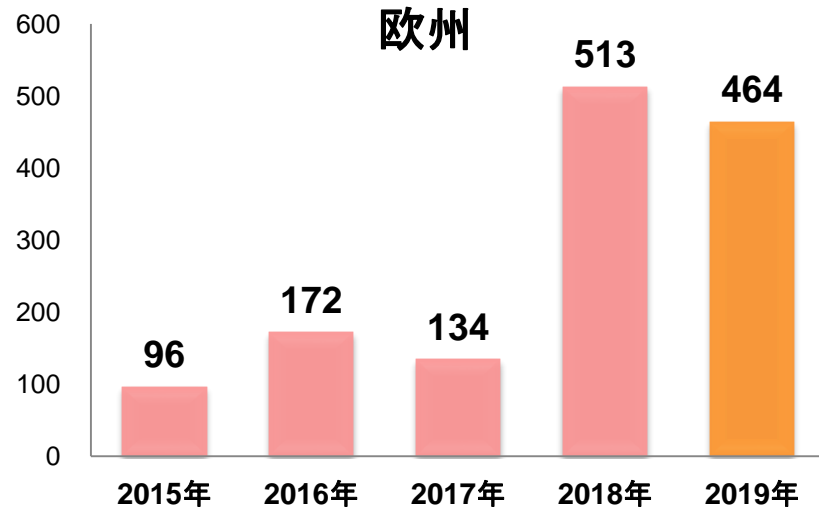
## 北米



## アジア



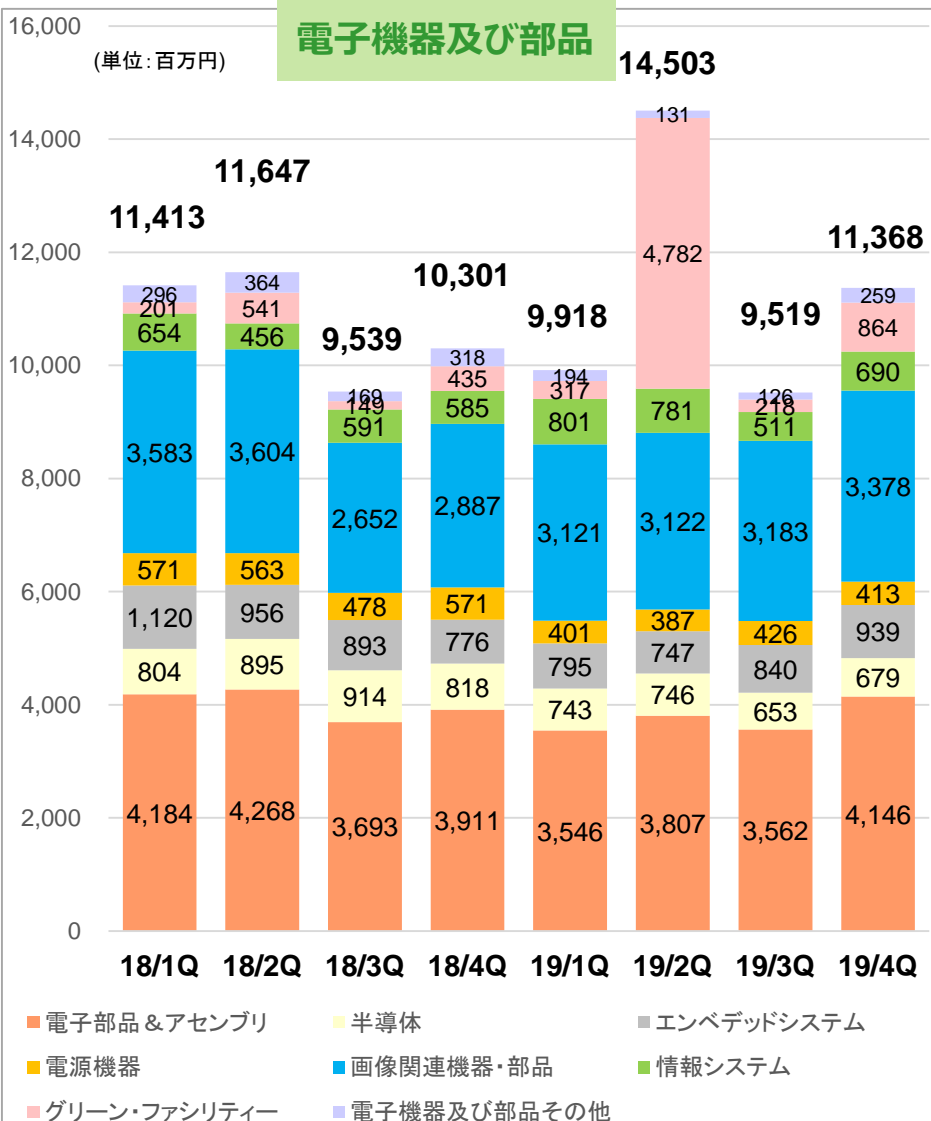
## 欧州



# 四半期別 受注高推移 (セグメント別)

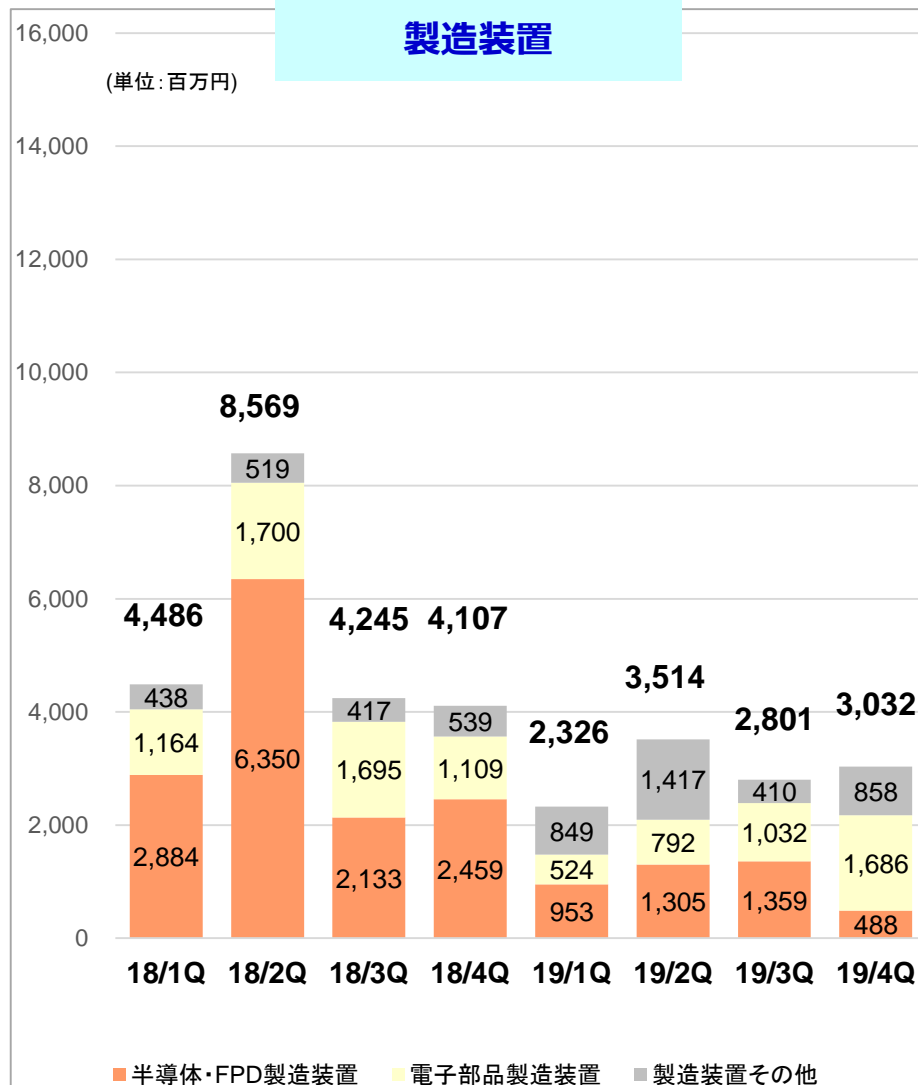
## 電子機器及び部品

(単位: 百万円)



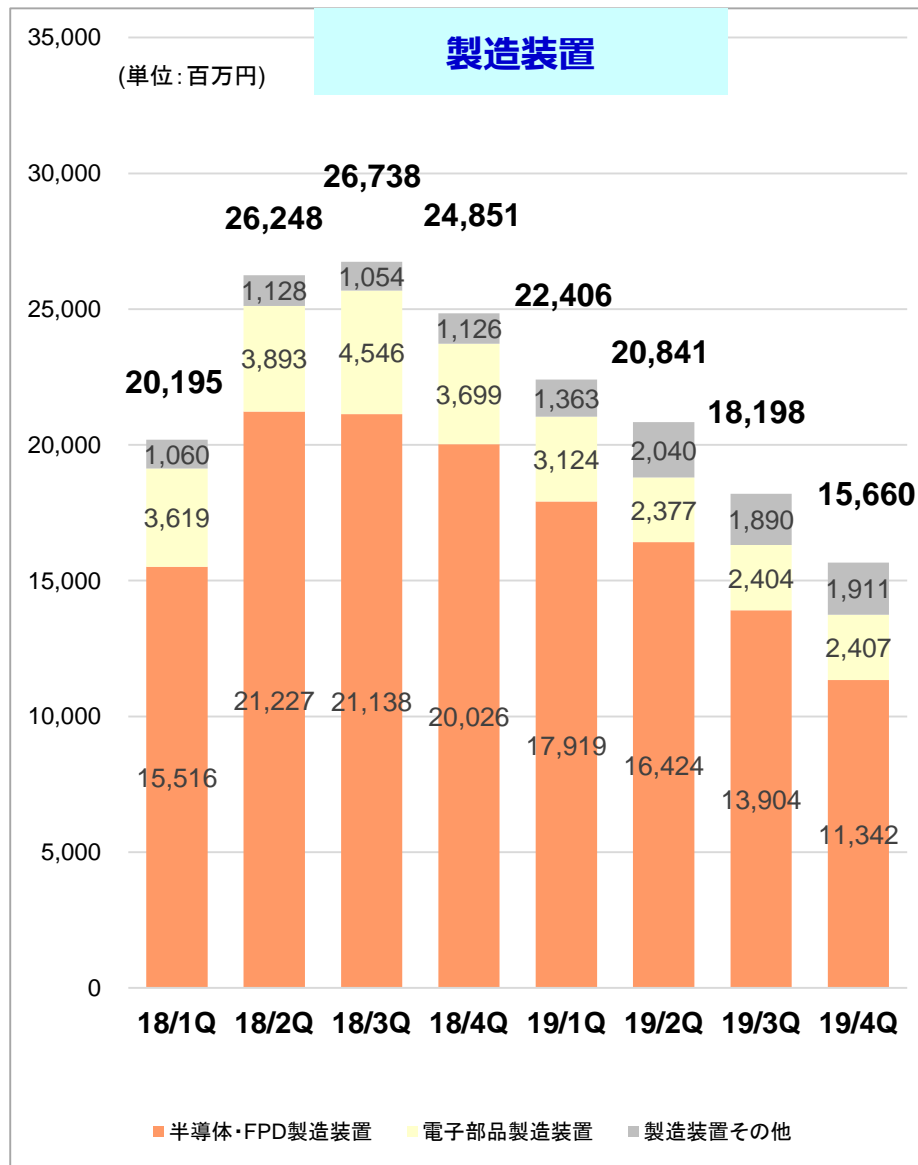
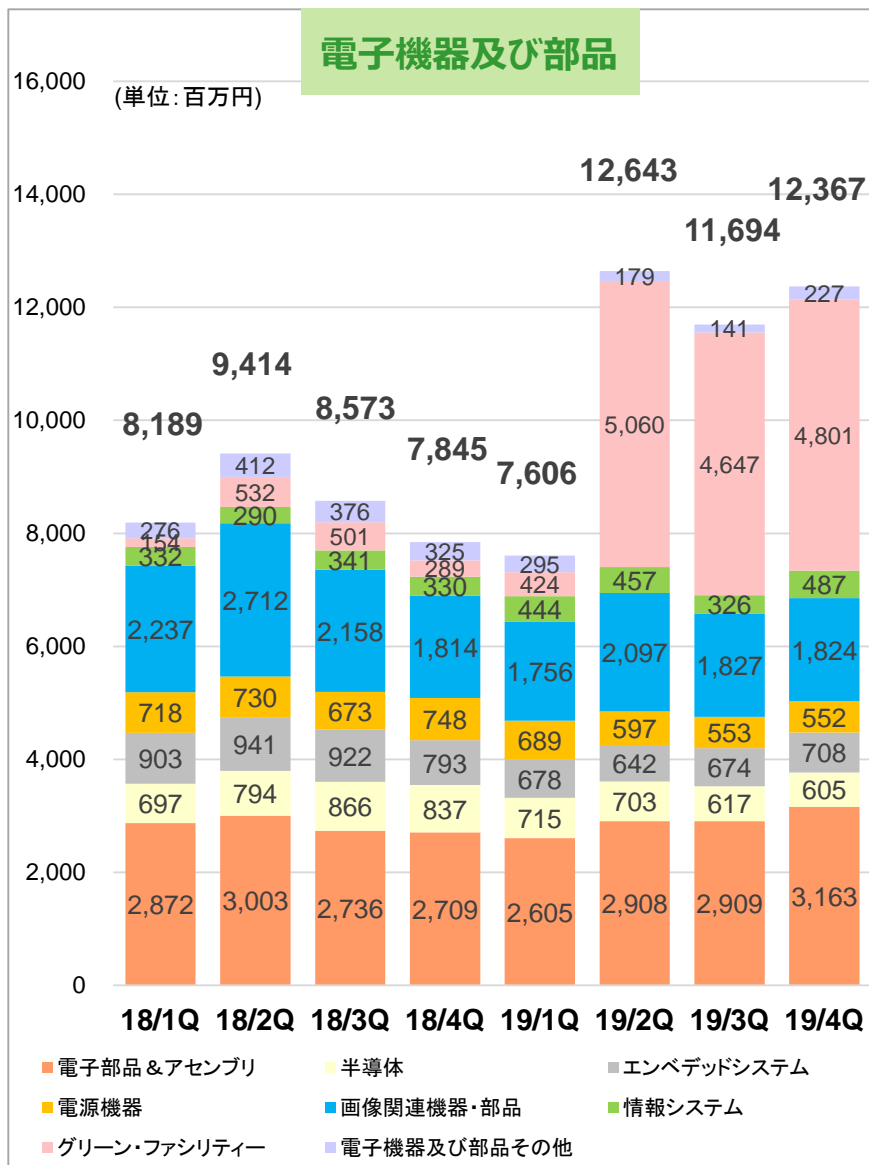
## 製造装置

(単位: 百万円)



# 四半期別 受注残高推移

(セグメント別)



# 通期連結業績予想

■ 売上高 **63,000百万円**  
(前年比 102.2%)

■ 営業利益 **3,250百万円**  
(前年比 101.4%)

■ 経常利益 **3,270百万円**  
(前年比 101.6%)

■ 当期純利益 **2,190百万円**  
(前年比 100.9%)

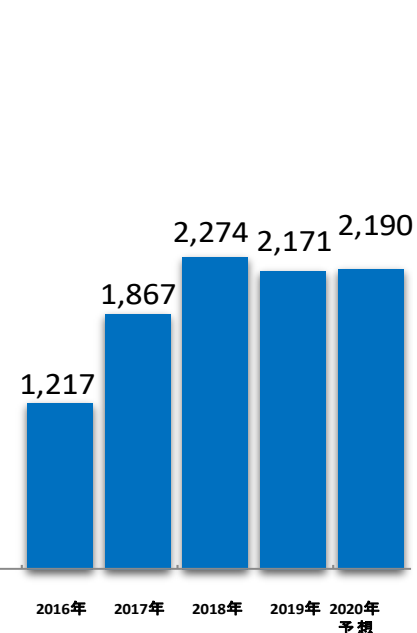
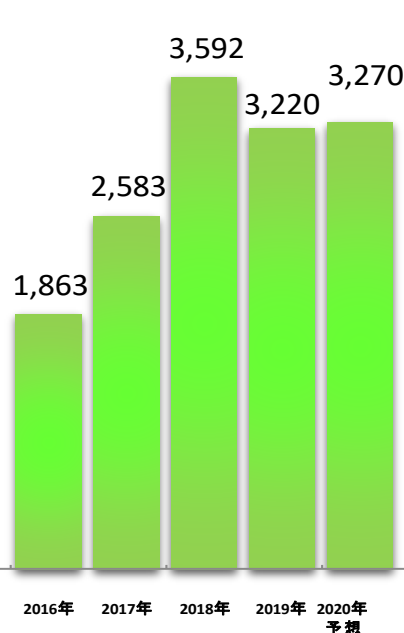
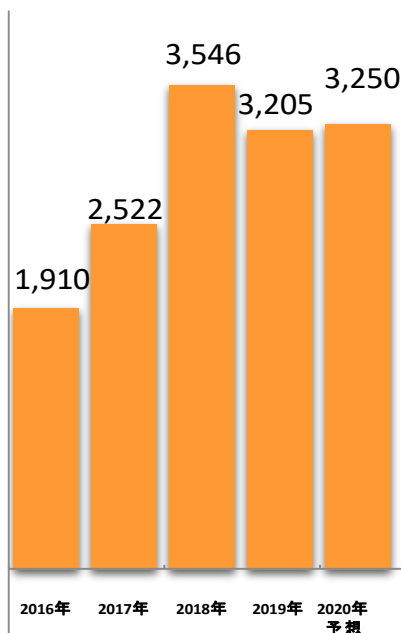
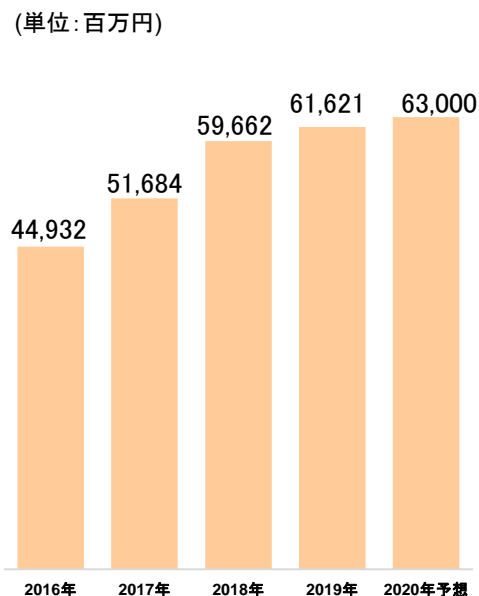
売上高

営業利益

経常利益

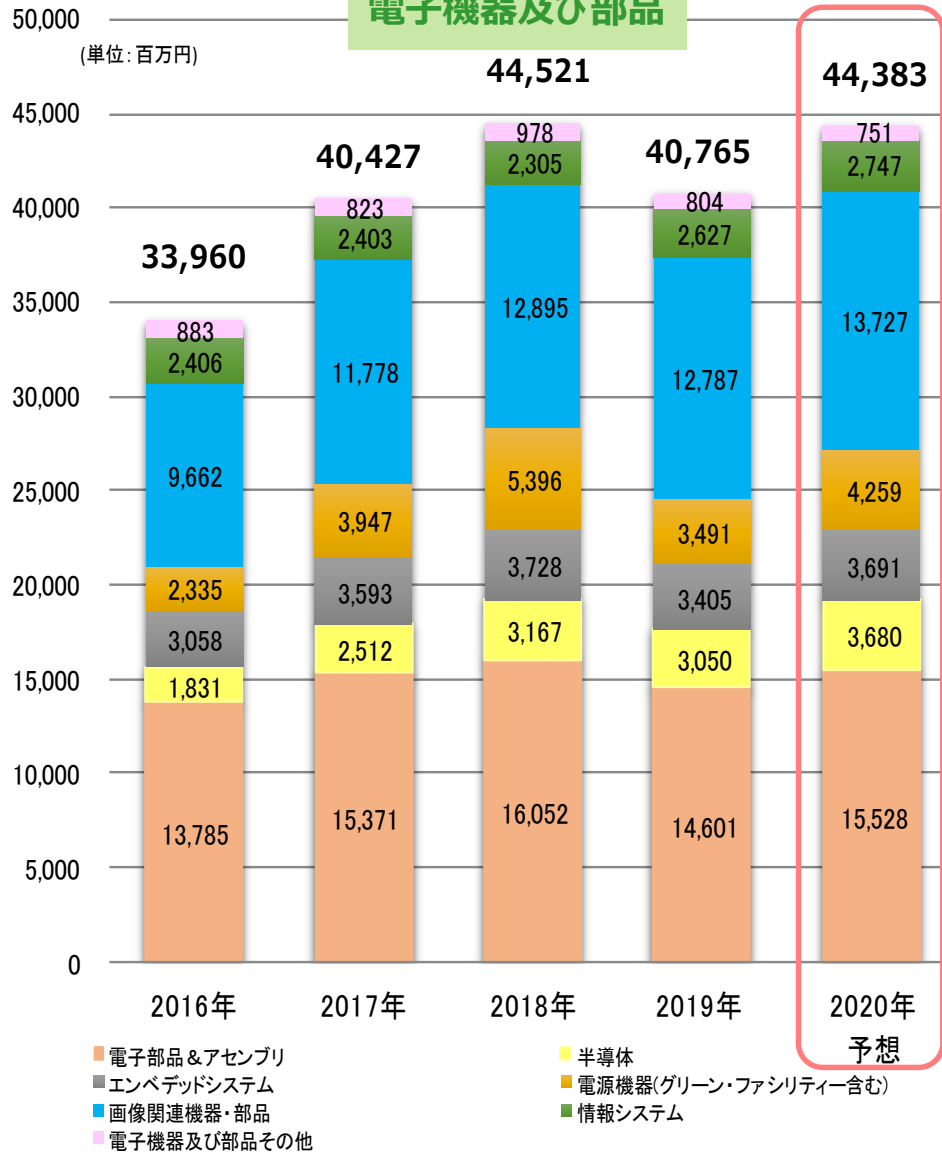
当期純利益

(単位:百万円)

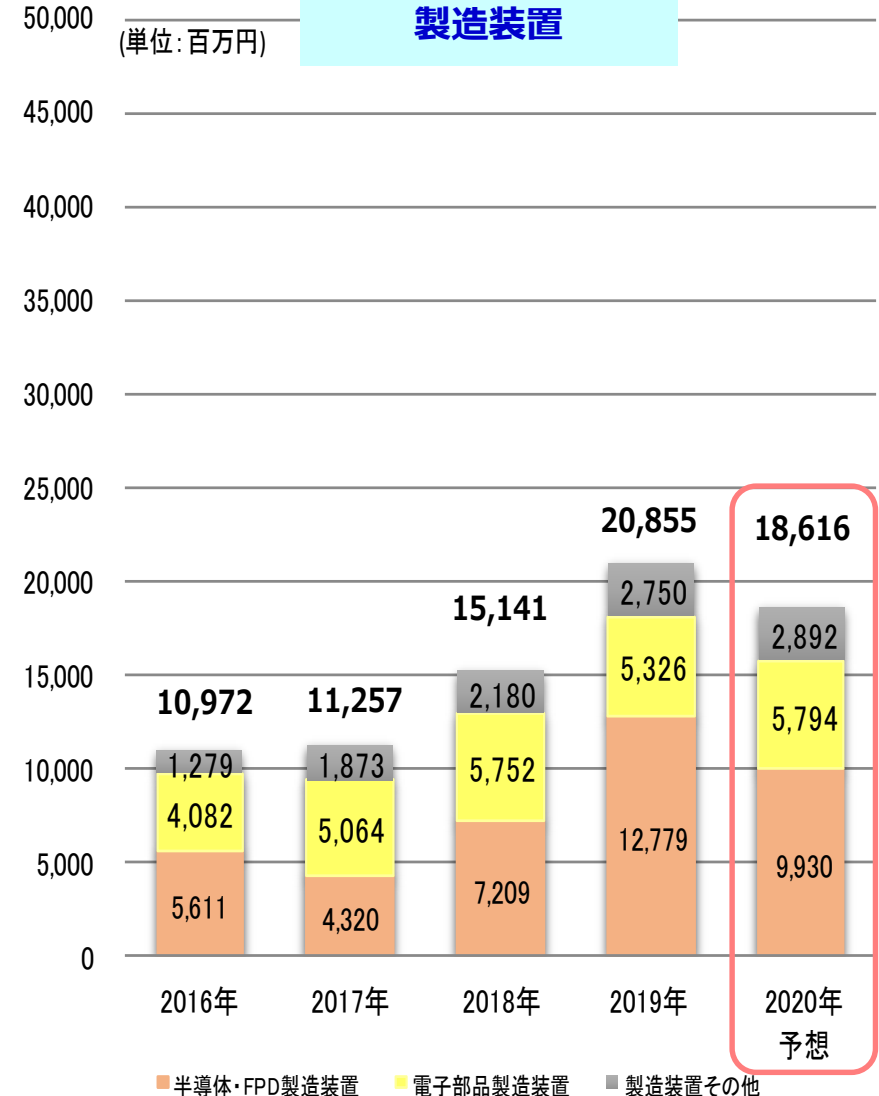


# 商品セグメント別業績推移・予想

## 電子機器及び部品



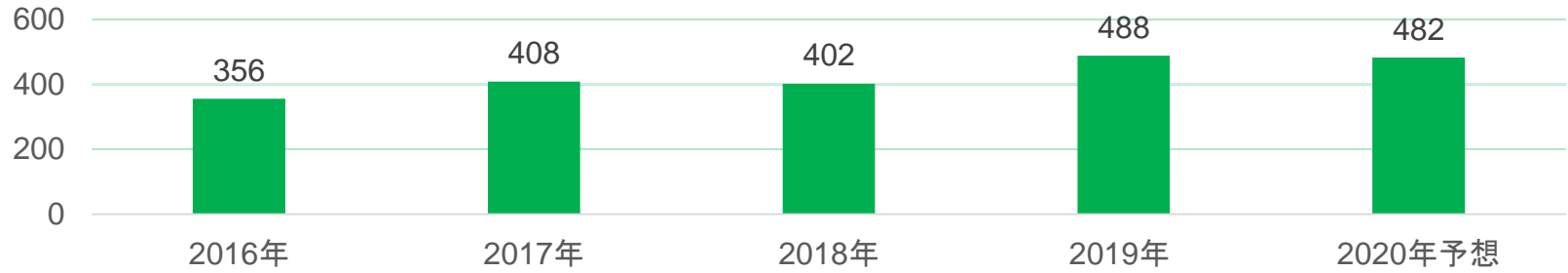
## 製造装置



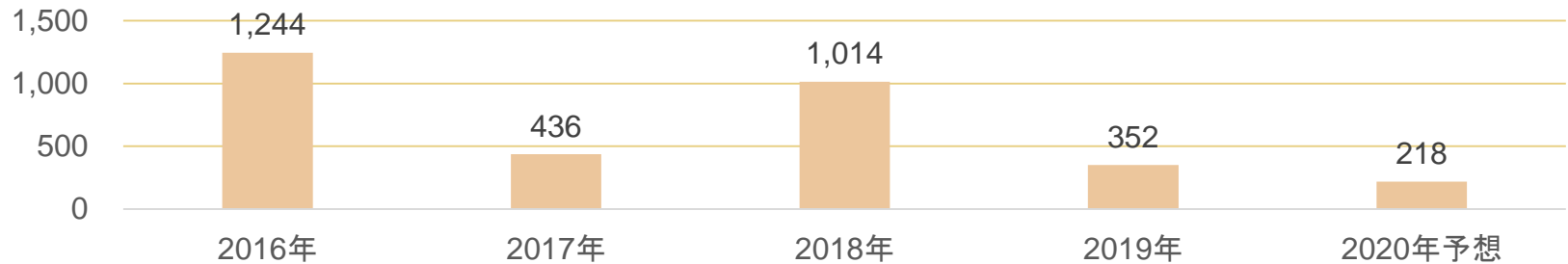
# 減価償却費・設備投資額・研究開発費の推移 **Daitron**

(単位:百万円)

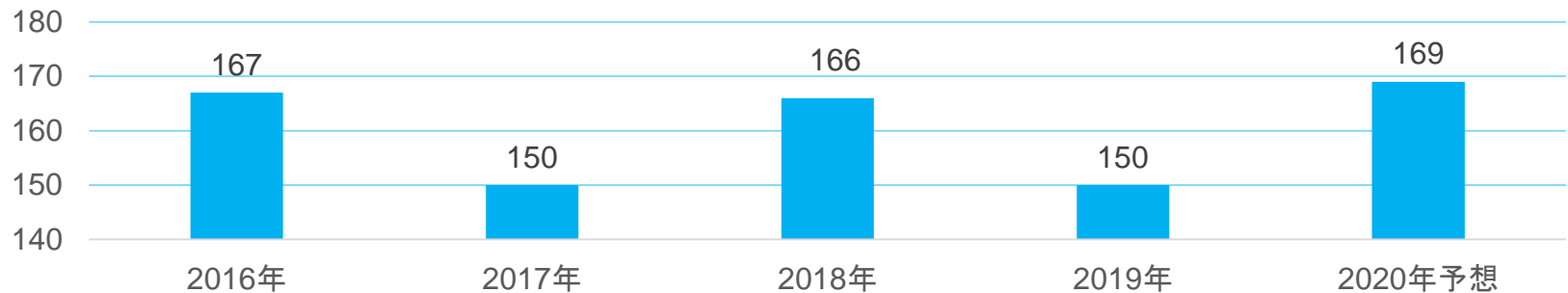
## 減価償却費



## 設備投資額



## 研究開発費



# 配 当

	第2四半期末 (中間)	期 末	年間配当 (中間+期末)	当初予想	配当性向
2016年 12月期	—	30円	30円	20円	27.4%
2017年 12月期	15円	30円	45円	30円	26.6%
2018年 12月期	20円	35円	55円	50円	26.8%
2019年 12月期	25円	35円	60円	60円	30.6%
2020年 12月期 予想	25円	35円	60円		30.4%

※ 2017年12月期より中間配当を実施

# 第9次中期経営計画(9M)





## 1 新グループ・ステートメント

# Creator for the **NEXT**

エレクトロニクス業界を担う企業として、グループのネットワークを活かし、新しい価値を創造する決意の表明

### 対外的メッセージ

「グローバルな観点で市場を捉え、お客様ニーズの一步先の価値を創造し、提供する」という意志を表明

### 社内的メッセージ

「常に次なる事業を創造し、さらなる成長のステージへ挑戦する」というスピリットを表明

***N : Network***

***E : Engineering***

***X : (Synergy)***

***T : Trading***

## 2 9Mスローガン

**「製販融合路線」により、**

**更なる成長を目指す**

## 3 目指す姿

### ● 製販融合の、他に類を見ないユニークな企業

- 顧客から見た場合「頼もしく」、仕入先から見た場合「安心感」のある
- 商社の「ダイナミズム」とメーカーの「可能性・着実性」を併せ持った

### ● 業界にとって、なくてはならない特徴ある技術・製品を有する企業

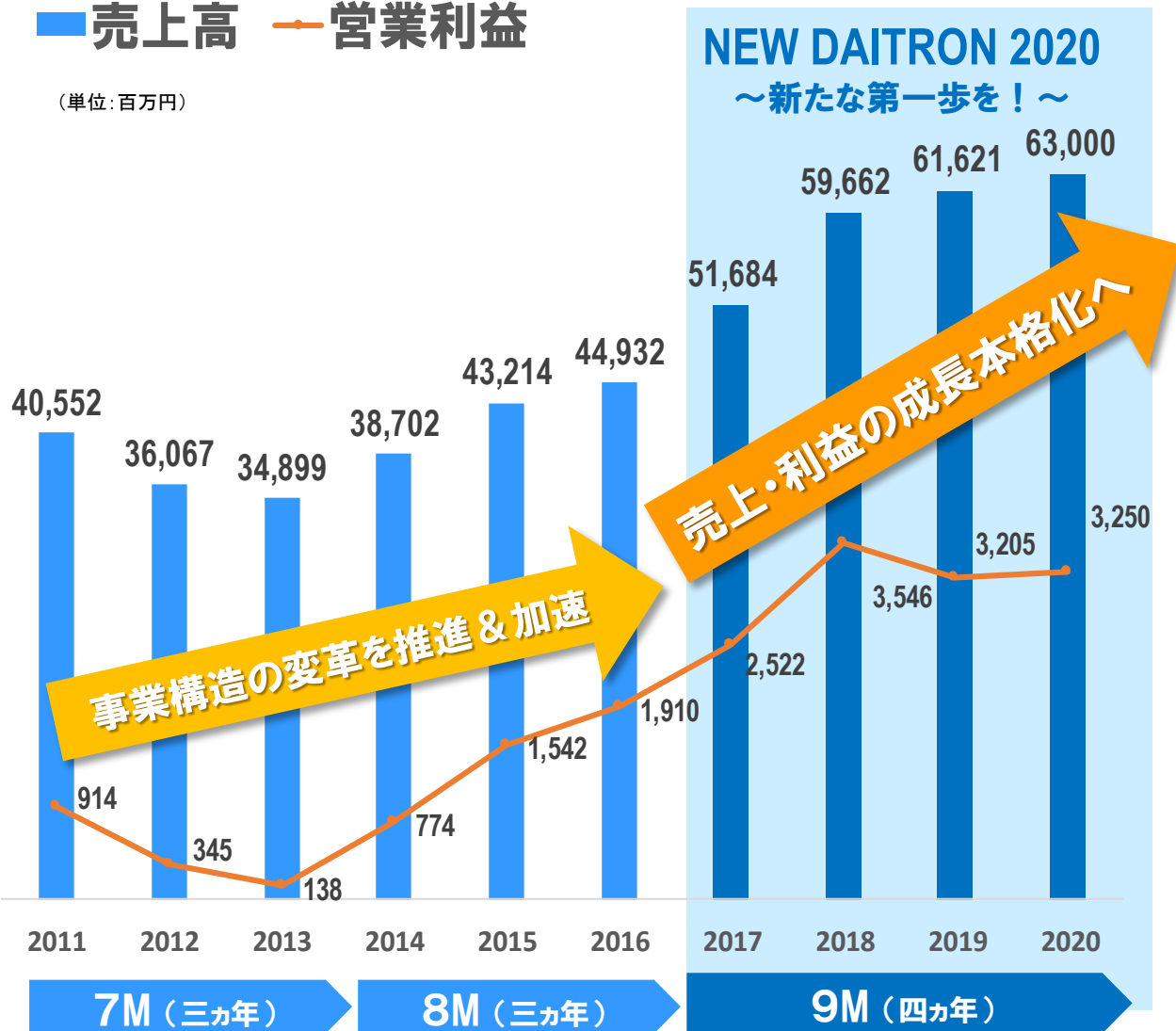
### ● 社員にとって、働き甲斐があり、誇りに思える企業

### ● 一致団結の強さと同時に自律能動的に動く組織

# 1) 数値目標(連結)

■ 売上高    — 営業利益

(単位:百万円)



## 【2020年 数値目標】

売上・利益ともに  
持続的な成長により  
過去最高実績を越えて  
更に先の成長を目指す

## 【目標とする経営指標】

自己資本比率

**50%**

(2019年:41%)

ROA

**4%以上**

(2019年4.9%)

ROE

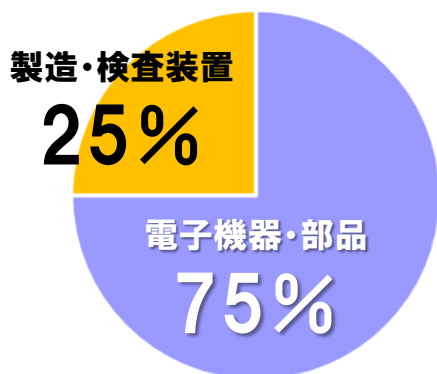
**8%以上**

(2019年:12.2%)

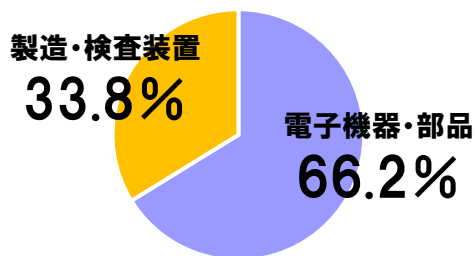
# 2020年(9M最終年度) 2)事業構造の状況(連結) **Daitron**

## 部門別構成比 (売上高ベース)

【2020年 目標】

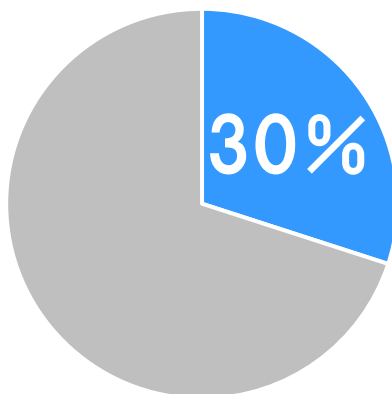


【2019年 実績】

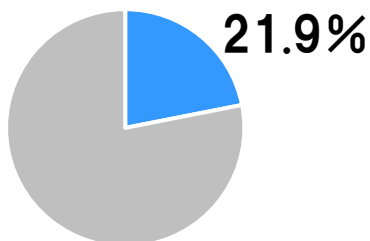


## オリジナル製品比率 (売上高ベース)

【2020年 目標】

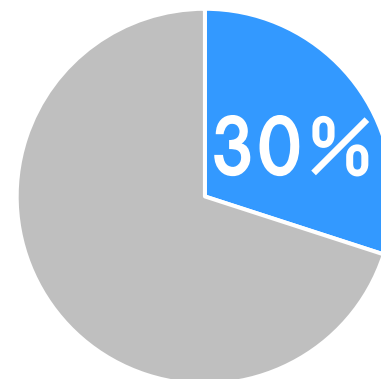


【2019年 実績】

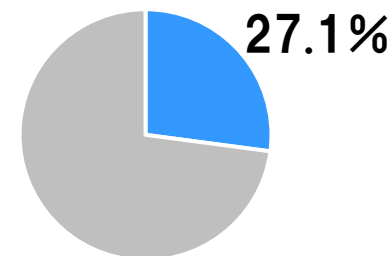


## 海外事業比率 (売上高ベース)

【2020年 目標】



【2019年 実績】



## 【基本方針】

**長期ビジョン(基本構想)の実現に向け  
製販融合路線を目指す新たな枠組みのもとで  
3社統合効果(シナジー)の最大化を図る**



## 【基本戦略】

- ① **成長性重視の事業再構築を推進**
- ② **オリジナル製品開発の強化**
- ③ **海外ビジネス展開の強化**
- ④ **マーケティング力&営業力の向上**
- ⑤ **生産部門の統合強化**
- ⑥ **組織力&人材力の強化**

## 2020年(9M最終年度)における各基本戦略のポイント①

### 1. 成長性重視の事業再構築を推進

- (1)オートモーティブ →ADAS、EV関連での事業拡大
- (2)メディカル →製薬業界、消耗品関連の事業拡大
- (3)ロボティクス →多様化するROB(サービス、介護、農業、他)への販促

### 2. オリジナル製品開発の強化

- (1)独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ→付加価値アップ
- (2)新製品開発の強化(新分野)→D&P 製品開発部の充実した活動
- (3)仕入先との連携強化による準オリジナルラインナップの充実

### 3. 海外ビジネス展開の強化

- (1)部品ビジネスの拡大
- (2)地域独自の事業を開発
- (3)海外拠点間のビジネス連携の強化

## 2020年(9M最終年度)における各基本戦略のポイント②

### 4. マーケティング力 & 営業力の向上

- (1)競争力のある仕入先(商品)開拓により利益率の改善を目指す
- (2)顧客製品の販売によりリレーションを強化
- (3)複合的(システム)販売により付加価値の向上を図る

### 5. 生産部門の統合強化

- (1)機器工場・特機工場の収益力アップ
- (2)グループ会社の生産機能の強化
- (3)生産性向上により付加価値を高める(利益率の改善)

### 6. 組織力 & 人材力の強化

- (1)ジョブローテーション、キャリアパス制度により人材育成や活性化を図る
- (2)リスクマネジメントの強化
- (3)新人事制度の運営 →65歳定年、評価制度の充実、教育の高度化



成長が有望視される  
市場を開発



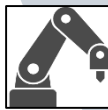
自動車



医療



インフラ



ロボット関連技術

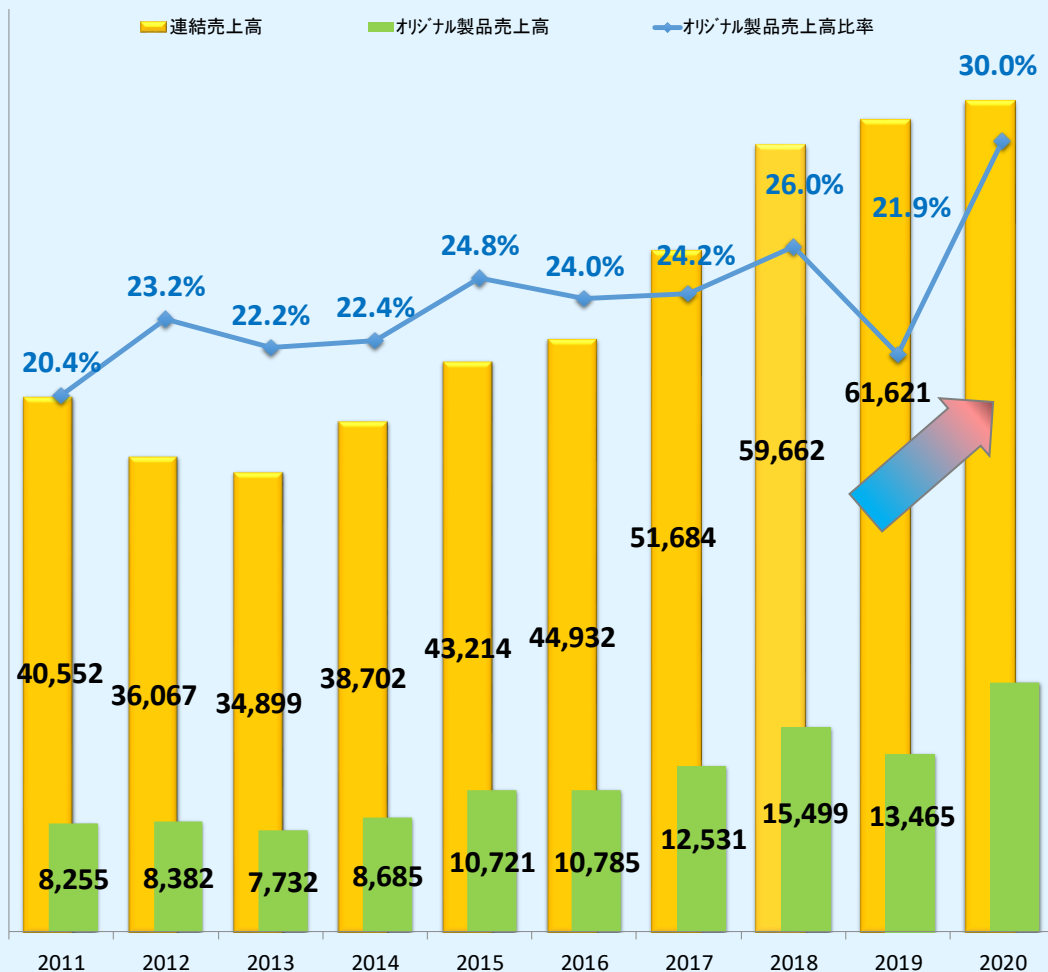


航空・宇宙

事業  
再構築  
を推進

安定的な  
成長基盤

単位(百万円)



**オリジナル製品比率**  
(売上高ベース)  
**2020年 30%を目指す**

## 戦略ポイント

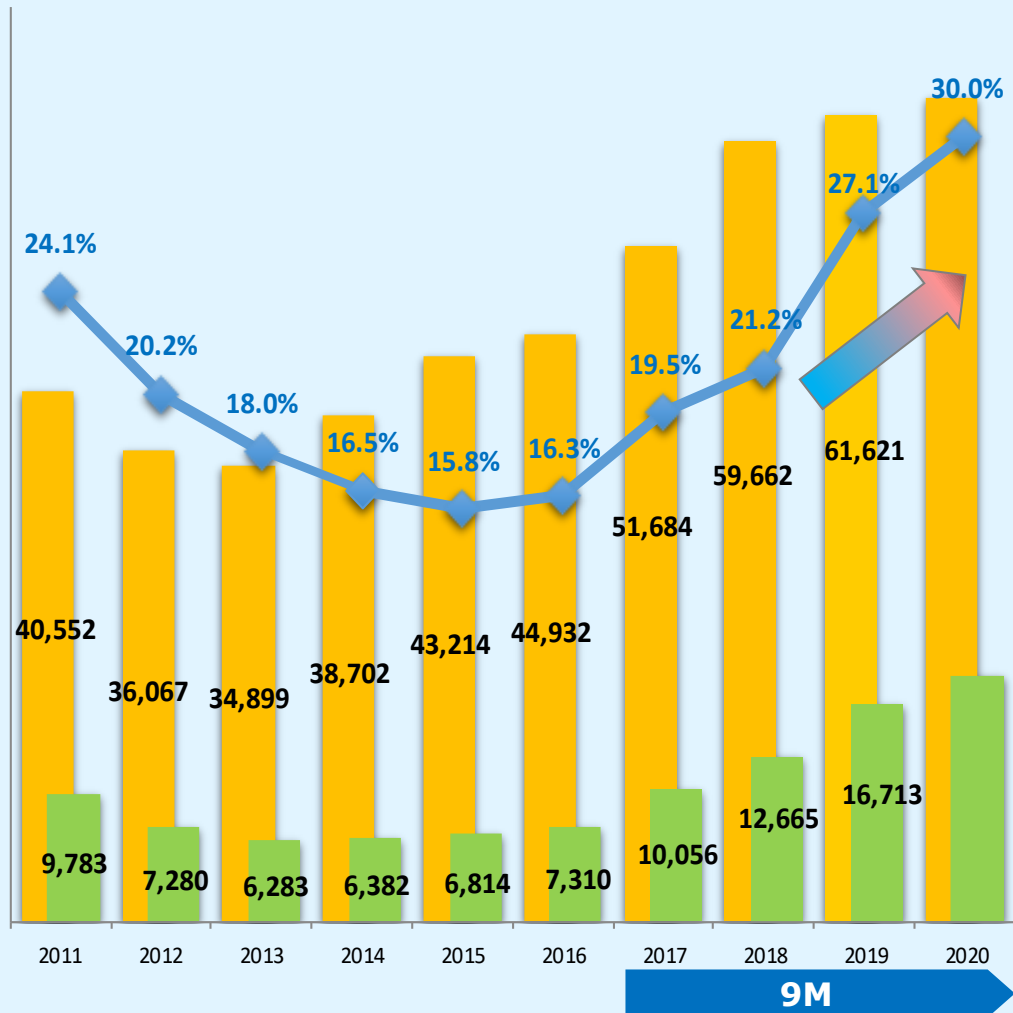
- 独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ
- 新製品開発の強化（新分野）
- 仕入先との連携強化による準オリジナルラインナップの充実

9M

# 【基本戦略③】海外ビジネス展開の強化

単位(百万円)

■ 連結売上高   
 ■ 海外売上高   
 — 海外売上高比率



**海外売上高比率**  
 (売上高ベース)  
**2020年 30%を目指す**

**戦略ポイント**

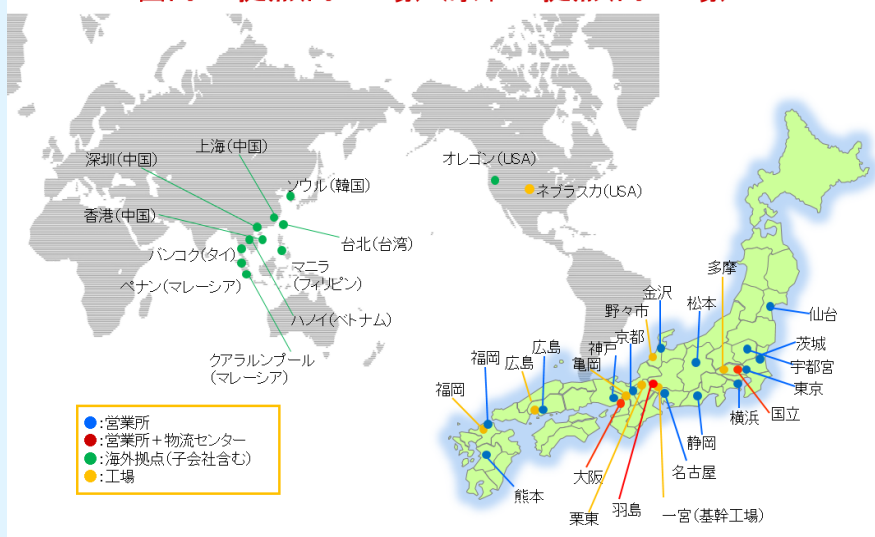
- ローカル企業との取引拡大
- 電子部品ビジネスの拡大
- 海外拠点間のビジネス連携の強化  
(アウトソーシングビジネスの拡大)
- 地域独自のビジネス推進
- ネットワークの拡充

## 戦略 ポイント 1

### 国内外における 販売ネットワーク拡充

- 【国内】 ● 東北地方 仙台(2019年1月設立)
- 四国地方 (調査中)
- 【海外】 ● ベトナム ハノイ(2019年5月設立)
- インド (調査中) ● 欧州 (調査中)

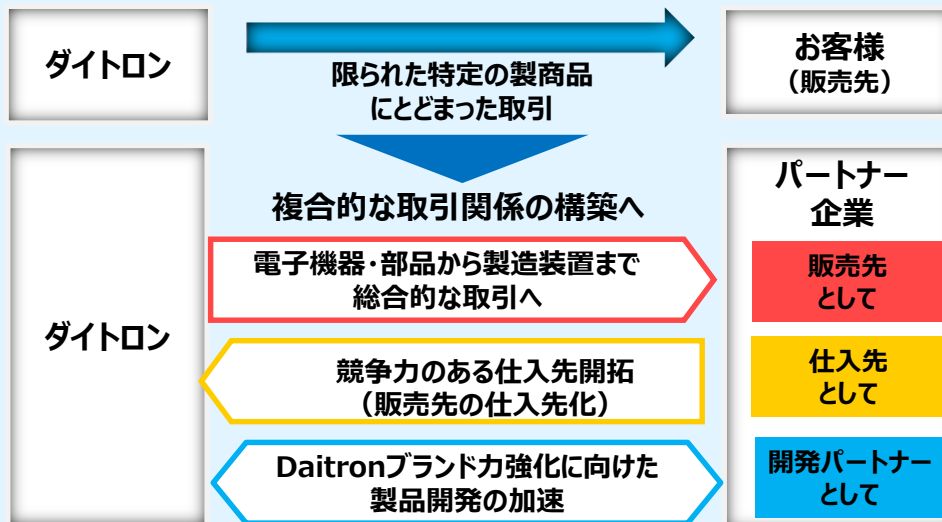
国内24拠点(内7工場)・海外12拠点(内1工場)



## 戦略 ポイント 2

### 既存市場における プレゼンス向上

- お客様との複合的な取引関係を目指した取り組み



中部工場 (愛知県一宮市)

ダイロングループの  
基幹工場として新設



製造と開発の  
中核拠点へ



中部第一工場  
2016年11月稼働

中部第二工場  
2019年8月本格稼働

- 生産性向上による収益力アップ  
⇒ 生産体制(中部工場)の集約・効率化  
⇒ 生産管理システムの導入(管理面)
- グループ会社の生産機能の強化

【第一工場】電子機器・部品関連生産体制  
⇒ 2016年11月稼働

【第二工場】製造装置関連生産体制  
⇒ 2019年8月本格稼働



製造装置の生産現場(中部第二工場)

# 技術で立つ会社へ

ダイترونグループは、  
3社統合効果の最大化により、  
製販融合路線による  
エレクトロニクス業界の**技術立社**として、  
独自の進化を目指してまいります。

この資料で述べられている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。

当社が位置するエレクトロニクス業界の電子機器・部品産業並びに製造装置産業は、テクノロジーの変化やスピードが大変速く、競争の激しい産業です。また、北米やアジア諸国の経済情勢など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

従いまして、今後、当社の業績の見通しが本資料と異なる可能性があることをお含みおき下さい。

《本資料並びにIRに関するお問い合わせ先》

経営管理部 IR担当

TEL: 06-6399-5952

FAX: 06-6399-5962

e-mail: [info.ir@daitron.co.jp](mailto:info.ir@daitron.co.jp)